

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790700060		
法人名	有限会社マイルドケア		
事業所名	グループホームたんぼぼの家Ⅱ		
所在地	香川県東かがわ市湊319番地1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様お一人お一人の能力を維持・向上できる支援を行っています。 ・利用者様の意思や個性を尊重し、思いやりの心で寄り添いのケアを提供しています。 ・年間を通じて行事やイベントを催し、季節感や地域とのつながりを感じることができる様に努めています。 ・利用者様の笑顔が見える、安心して家庭的な生活環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

地元の小学校や保育園との交流、コーラスや寄席など地域のボランティアの来訪、夏祭りは300人を超える地元住民で賑わう等恒例行事になっている。毎月、家族へ利用者の生活状況を詳細に書面で送り信頼関係の構築に努めている。看護師の配置が手厚く医療機関への受診支援、事業所周辺の散歩、買い物や外食など個別支援に努めている。県外への遠足、季節を感じる祭りや花鑑賞等の外出支援を行なっている。食事の面では、主食・主菜の選択が可能、食レクリエーションを行う等、美味しい食事の提供と食事を楽しめる工夫をしている。利用者本位で地域活動や人々との関わりを積極的に持っており地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕の申し送り時と月1回の全体会時に、理念を唱えている。 スタッフルーム内にも理念を掲げ、その意味についても具体的に説明を行い、常に意識をして業務を行っている。	申し送り時や全体会で理念の確認を行っている。各ユニット単位で目標を挙げ、更に年度末に個人目標の自己評価を行い管理者と職員は、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年8月に夏祭りを開催し、地域・家族の方々にご参加頂いている。また、地域の小学校の運動会にも参加している。クリスマス会や敬老会などでは、地域の保育園から慰問がある。	毎年8月に夏祭りを開催している。多彩な催し物を企画しロータリークラブや地域のボランティアの協力がある。家族や地域の人300人を越える来場者で賑わっている。また、クリスマス会や敬老会に保育園児の来訪、地元の小学校の運動会に参加する等、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動状況報告を見て頂き、認知症への対応や支援内容を理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、入居状況や行事などの取り組みの報告をしたり、地域の方々から情報やご意見をいただき、サービス向上に活かしている。	2か月に1回、市介護保険課、地域包括支援センター職員、自治会長、利用者、家族等が参加して開催している。利用者の状況、行事報告、研修報告、事故防止等事業所の取り組み状況の報告や家族や担当者からの質問や意見もあり、報告や話し合いが会議録から読み取れる。	利用者家族の参加も多く、活発に意見交換されているが、更に運営推進会議に地域の婦人会や民生委員等も加わることで、開かれた事業所としてより一層地域からの理解や支援が期待できる。特に災害時等の協力関係を築いていくうえでも、地域の方の会議参加に向けた働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、当事業所の活動報告を行うとともに、手続きや相談等で市に出向いた時に話す機会を持つようにしている。	運営推進会議の際に情報交換を行うとともに、介護認定更新時に市役所に出向いた際に相談する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の全体会で勉強会を行い、身体拘束のないケアについて話し合っている。 出入口に施錠はせずセンサーをつけ、出入りが分かるようにしている。	身体拘束に関するケアを正しく理解する為に、職員が輪番で講師となり勉強会を行っている。利用者の自由を確保する為に、日頃から利用者の状態を把握し、共有に努めている。さりげない声かけや見守り、センサー等を効果的に活用し、身体を拘束しないケアに取り組んでいる。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で話し合い、言葉の虐待にも注意し、全員の意識向上を図って予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学習し、必要に応じてご家族様に相談及び支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親切・丁寧を念頭に、分かりやすい説明を心掛け、信頼関係の基礎を作れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時において出た意見や要望等を聞き、運営に反映するようにしている。	面会時に、利用者の状況を説明する等、家族とのコミュニケーションを心がけている。月1回、利用者の生活状況を詳細に書面で送り家族との信頼関係の構築に努めている。運営推進会議に利用者や家族に参加してもらう等、外部者へ意見・要望を表せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会・主任会・ユニット会において意見や提案が職員から集まるよう工夫し、反映できるよう取り組んでいる。	全体会・主任会・ユニット会、日常のケアの中で運営に関する職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、希望があれば社長と直接面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全体会・主任会・ユニット会に参加し、環境を良くする努力を続けるとともに、自己評価等において職員個々の実績や勤務状況を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会後に社内研修を実施し、職員の技術向上に努めている。また、社外研修への参加を励行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。そこでの研修等に参加し、同業者との交流機会を持ち、サービス向上に努めている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前や利用するとき、可能な限りご本人様とお話し、可能な限り要望を取り入れ、今までの生活と変わらないようアセスメントをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望等に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点でどんなサービスが必要か、ご本人様やご家族様・居宅のケアマネージャーから詳しく話を聞きながら、ニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来ることは出来る限り取り組んで頂き、暮らしの中に役割を持って頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは必要に応じて連絡を取り合い、報告をしている。また、ご本人様の悩みなどを聴くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活を聞き、知人等とどのような付き合いをしていたか、また、楽しかったことなどを教えて頂き、希望があれば馴染みの美容院の利用等の支援もしている。	買い物や外食、美容院等の個別の外出支援を行なっている。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出の機会を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良き関係が築けるように、一緒にクラフトを行ったり、洗濯畳み等の作業を通し、楽しく生活して頂けるように支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居した場合でも、ケア・生活状況を細かく伝え、ご家族様とお会いした時でも声をお掛けし、状況を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・入浴などを無理に勧めることなく、常に職員間で話し合いながら、ご本人様の希望に添えるよう努めている。	入居時に生活歴や職歴、趣味や嗜好等を把握している。日常の会話や表情、態度から思いを読み取り職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活・家族・友人のことを聞きながら、楽しい時間や落ち着かれる時間がどういう時かアセスメントし、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をよく観察し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し時、担当者会議で意見を出し合い、ご本人様が生活しやすいように見直しを行うように努めている。	介護計画作成時には、本人や家族、職員、主治医の意見を踏まえてアセスメントし、担当者会議を開催している。利用者の状態に応じて随時、見直しの期間を設定し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までのアセスメント、個別記録、食事量などをもとに、職員間で話し合い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問時に参加し、通所や他ユニット間との交流を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日には近隣散歩に出かけたり、訪問販売の利用などにより、心身ともに豊かな暮らしができるよう支援している。また、ボランティアの方々に来所していただく機会を多く設けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じてかかりつけ医と各状況において連絡・相談し、情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	入居後も本人、家族の希望するかかりつけ医を受診している。医療機関の受診には看護師が同行しており、受診結果は、家族と事業所が共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師がいて利用者様の状態を把握し、介護職員と健康管理等の情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時にはサマリーを作成し、入院先へお渡しして、必要に応じて病院のスタッフより情報をもらうとともに、入院中も面会を頻回に行い、退院後の支援に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針について、ご家族様に説明を行っている。状態の変化時にはご家族様と職員で話し合い、主治医からも助言を受け、状況に応じた対応をしている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族に説明している。看取りを行っており、状態の変化に伴い家族の不安や混乱が生じないよう家族や職員、主治医が繰り返し話し合い、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って対応方法の確認をしている。全ての職員が応急手当等ができるよう、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、職員が入居者様と避難訓練を行い、避難経路や消火器の使用方法などを確認し、災害の地域協力について話をしている。	年2回夜間を想定した避難訓練を行っている。出火場所を変更して避難経路や避難場所、消火器の使用方法を確認している。津波や高潮を想定して近くの企業と協力関係を築いている。備蓄品として飲み物・米・野菜などを確保している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で意識し、注意をし合って言葉遣いにも気を付けている。	全職員が誇りやプライバシー確保について、接遇研修を受け意識づけや注意喚起の機会を持っている。日常の関わりの中で一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの汲み取りができるように常に傾聴に努めるとともに、意思表示や自己決定ができるように、声掛け等の対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課についても、必ずしも時間通りでなくても良いことをご本人様にお伝えし、援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時の服選びやお化粧など、おしゃれを楽しみながら生活できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはお盆拭きやテーブル拭きなどを行って頂いている。 食レクでは食べたい物を一緒に作ったり、畑で作った野菜を収穫・調理し、食べることを楽しませている。	利用者は、力量に合ったお盆やテーブル拭きを行っている。事業所の菜園や地元で採れた野菜を食材としている。週2回、選択メニューの日を設け、身体状況にあった食事形態にする等、個別対応を行っている。月1回の食レクレーションでは、嗜好調査を行い、職員と一緒に作り食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記入し、申し送りで見守りしている。 好みや状態に応じた食事提供ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けして、歯ブラシや口腔ケアスポンジなどで口腔ケアを行っている。義歯も消毒し、管理をしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら声掛けし、トイレ誘導するなど、出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。また、腸の働きが良くなるように、体操や歩行運動を支援している。	排泄チェック表を用い一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導等を行い出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況の把握に努めている。 ご本人様の希望により、ヨーグルト等により排便を促し、運動も行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる状態にし、無理強いする事無く、ゆっくりと入浴できるように支援をしている。	原則、週2回午前中の時間帯で個浴での支援を行っている。日常生活動作に応じて特殊浴槽を使い分け個別対応を行っている。ゆっくりと入浴できるように入浴剤を入れたり、午後や夕方にも入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に安心して眠って頂くように援助している。 日中に横になりたい時は自由に休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットチェック、服薬時のチェック表を看護師が中心になり、管理している。介護スタッフも効果と副作用が分かるように説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のそれぞれの趣味や好きな事を把握し、楽しく作品作り等を行って頂き、ご自分の役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画に添って、ドライブ・遠足・祭り等に出掛けている。買い物や外食等、個々の希望にそった外出の支援も行っている。	利用者一人ひとりの状態に合わせて近所の散歩や買い物、外食等個別の外出支援を行っている。年間行事計画に沿って花見や菖蒲祭り、紅葉狩り等自然に触れ季節を感じる機会を設けている。また、年に1度法人全体で利用者、家族、地域の人、職員総勢で県外に遠足に行くなど、外出支援に努めている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が可能な方にはお小遣いを持っていただき、買い物へ行ったときには使用できるよう支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人様・ご家族様の希望で、ご自分で携帯電話を持ち電話をかける方や、事務室の電話にてご家族様と話ができるよう、取り次ぎの支援をしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアや居室入口に季節の手作りの作品を飾り、季節感を出している。 トイレの入口には目印を付け、明るく分かりやすい環境作りをしている。</p>	<p>フロアには利用者の季節の協同作品、居室入り口には個々の作品を飾り季節感を出している。行事の写真も飾られ楽しい生活ぶりが垣間見え明るく家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様が過ごしやすいように、席が空いていればどなたでも座って話ができるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族様の写真を置いている方や、テレビを置いて好きなように操作をされている。また、使い慣れた物を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>利用者が利用・活用しやすいようにベッド、テレビや小物入れが上手く配置している。クローゼット内には、ダンスや衣文かけに日々の衣装が選びやすいように整理されている。家族写真や事業所で撮った写真を飾るなど居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来ることは役割として入居者様に行って頂いている。 共用部分には手すりが付いており、安全に生活ができるようになっている。</p>		